シカゴ大学留学記

University of Chicago
溝谷　優治
（シカゴ大学）

私はシカゴ大学 Dr.Edwin Munro のもとで発生研究を行う機会をいただきました。Munro 研究室では、細胞がどのような力を生み出すことで組織を形成するのか調べています。私は生きたまま観察できるモデル生物ホヤを用いて、脊索管や神経管の形成メカニズムを調べてきました。シカゴ大学には優れた専門施設があり、多様な専門分野の研究者がたくさんいます。たとえば大学には最先端の顕微鏡一式が装備されており、イメージング一筋 30 年といったプロから直接指導を受けることができます。おかげで幅広い知識や経験を得ながらイメージング系を構築でき、これまで他の生物では見れなかった興味深い現象を発見することができました。また近年、シカゴ大学では光を使って分子機能を制御するオプトジェネティクスを用いた研究が盛んです。専門家と幾度も議論することで、ホヤでもこれが使えるようになり、現象を「見る」だけでなく「操作する」ことも可能になりました。研究室メンバーはいつもバイオロジーの観点から的確な意見をくれ、研究の進展に大きく貢献してくれます。このようにシカゴ大学では各分野に明るい研究者が必ずいて、充実した研究生活を送れています。

シカゴは全米第三の大都市で美術館や博物館、スポーツなど、観光でも存分楽しめます。もっともシカゴ大学は中心街から車で 30 分ほど南のハイドパークに位置し、自然豊かで歴史ある建物が並ぶ美しい街です。リスやウサギ、蛍、野鳥なども生息し、歩くだけでいつも癒されます。生活にも困りません。普段の食材は歩いてすぐのスーパーにいけば事足り、中心街にでれば日本食材も揃います。そして、特筆すべきは家賃の安さです（月 $1000 ～ $1600）。留学で有名な他の米国都市に比べ 1/2 ～ 1/3 で抑えられ、出費が多い留学者にとって実に助かります。世界トップクラスの研究力をもつシカゴ大学の恩恵を受けつつも、生活しやすい環境は留学地として最適なのではないかと思います。

とはいえ 2020-2021 年は米国にとって特に激動の一年でした。周知のように COVID-19 のパンデミックから始まり、“Black Lives Matter” の名のもとに展開される暴動、大統領選挙に伴う混乱が起こりました。一時研究を中断せざるを得なくなり、近所の小売店の窓ガラスが割られ強盗も頻発しました。群衆が百貨店に押し入り高価な品々を盗んでいくのをテレビ中継で見たのは衝撃を受けました。日本では考えられない体験をできたのはある意味貴重でした。パンデミック前はラボメンバーや国内外から訪問する著名な研究者、そして国際色豊かな大学の友人たちと BBQ やパーティー、ボードゲームなどをしたのが良

い思い出です。早くそのような平和な日常に戻ればと思っています。

私はもうしばらく大学に残ることができそうですので、これまでの結果をまとめ、良い研究成果にできるよう努力してゆきたいと思います。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました上原記念生命科学財団の皆様に厚く御礼申し上げます。

COVID-19パンデミック時の大学キャンパス